



子供の時分にやっとの思いで手にすることのできた雑誌は「日本の少年」であった。毎月一回こ
れが東京から郵送されて田舎に着くころになると、
郵便屋の声を聞くとたびに玄関へ飛び出して行った
ものである。甥の家では「文庫」と「少国民」をとっ
ていたのでこれで当時の少青年雑誌は全部見られ
たようなものである。そうして夜は皆で集まって
読んだもの話しくらをするのであった。

「読書の今昔」 寺田寅彦